

令和8年度

目黒日本大学中学校

入学試験問題

国語

試験時間 50分

注意事項

- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- この問題冊子は、全16ページあります。
- 解答用紙は、問題冊子の中にはさんであります。試験開始の合図がありましたら、解答用紙を取り出してください。
- 解答はすべて解答用紙の決められた欄らんに記入してください。
- 試験中に質問がある場合は、手を挙げて監督者かんとくしゃに知らせてください。
- 試験終了後、監督者の指示しゅうりょうにしたがって問題冊子と解答用紙を提出してください。
- 問題冊子および解答用紙に、受験番号・氏名を記入してください。
- 解答は、特に指示がないかぎり、句読点や記号をふくむものとしします。

受験番号	氏名

一 次の各問いに答えなさい。

問1 次のぼうせん部のカタカナを漢字で答えなさい。

- ① 新聞のシャセツを読む。
- ② このあたりの海岸はユウエイ禁止だ。
- ③ 家のマワリを散歩するのが日課だ。

問2 次のぼうせん部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 赤ちゃんが居間で寝ている。
- ② 相手の方が一まい上手だった。
- ③ 耳障りなうわさ。

問3 ①・②の□にふさわしい言葉を後から一つずつ選び、慣用表現・四字熟語を完成させなさい。

① □にかすがい

ア とうふ イ ねこ ウ ぶた エ はんぺん

② 異□同音

ア 工 イ 句 ウ 区 エ 口

問4 次の空らんには当てはまる言葉を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 彼かれとは非常に馬が（ ）。

ア 反る

イ 合う

ウ 乗る

エ 飛ぶ

② 理不りふじん尽にしかられた彼女かのじょを見て（ ） 気持きもちちになる。

ア いたたまれない

イ あなどれない

ウ おとなげない

エ ゆめにもない

問5 次の文のぼうせん部と同じ意味、用法の助詞を含むものを後から一つ選び、記号で答えなさい。

彼は「もうだめだ」と叫さけんだ。

ア 友ともだちと勉強べんきやうをする。

イ パンと牛乳ぎゅうにゅうを買かった。

ウ ぜひ合格ごうかくしたいと思う。

エ わたしは姉あねと似にている。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本文を一部改変しています。)

ドラえもんをつくるには、^①まず「ドラえもん」[※]を定義しなければなりません。

正直、ドラえもんの定義はとくによくたずねられた質問でしたが、最近までうまく答えることができませんでした。それは、不用意で自分勝手な定義を主張してしまうと、それがだれかのドラえもん像を否定することにもなりかねないからです。

だれもが認めてくれるドラえもんの定義を追い求めてずっと頭をなやませてきましたが、最近、ついに決着をつけました。

定義の仕方にはいくつかの方法があります。一つは、私が「^②機能要件集合」と呼んでいるもので定義する方法です。わかりやすく言えば、機能の要件を一つひとつ定義していくやり方です。

たとえば、^③腕時計を定義するときには、

「腕につけられる」

「時を刻む」

といった機能要件がいくつかあり、それらをすべて満たしたものを腕時計と定義するわけです。

では、ドラえもんは、どんな機能要件を満たさなければならないのでしょうか。

「人と会話ができる」

「ひみつ道具を持っている」

「四次元ポケットがある」

「未来からきた」

などたくさんあります。

ドラえもんの機能要件をすべてあげるとは困難です。

あまりにも有名かつ人気キャラクターであるため、人それぞれ、「これがドラえもん」という要件を無意識にもっています。それらは、^④相矛盾する要件も多いと思われるため、「これとこれとこれの機能要件を満たしたらドラえもん」という、機能要件集合による決め方は不可能です。

ある人は、「ドラえもんは、もともとの設定どおり、エネルギー源として原子炉^{げんしよ}を積んでいなければならない」と思っているかもしれない。別の人は、「原子炉なんか積んでいたら、ドラえもんじゃない」と思っているかもしれない^⑤。相矛盾する要件が出された時点で、^⑥定義の合意がとれ

なくならず。

私がこれまでドラえもんの定義をどうしても決められなかったのは、そもそも機能要件集合によって定義しなければならないという思いこみがあつたからでした。

定義の仕方には、別の方法があります。それは、私が社会的承認による定義と呼んでいるものです。「みんなが認めてくれたもの」という定義の仕方です。みんなが「これは、ドラえもんだよね」と認めてくれるものがあれば、「ドラえもんである」という決め方です。

ドラえもんは、社会的承認による定義がとくにしやすい特別な存在です。

あるロボットを見せられて、「これは汎用AI※はんちゆうですか？」と聞かれたときに、多くの人はあまりピンときません。汎用AIのイメージが湧かないために、④的に「はい」とも「いいえ」とも答えることができないのです。

ドラえもんの場合は、「これはドラえもんですか？」と聞かれたときに、

「これはドラえもん」

「ちよつと、ちがうよね」

と、④的に多くの人が判断できます。

ドラえもんはみんなが知っていますから、社会的承認による定義が可能です。

多くのものづくりは、だれもイメージしたことのないものをつくりだし、できあがつたものによってイメージが形成されます。一方のドラえもんは、もともと多くの方がイメージをもっていて、あとからそれに沿うものをつくります。ここに、ドラえもんをつくることの特とく殊しゆ性せいがあり、難しさがあるのです。

社会的承認によるドラえもんの定義は、まさにここを逆手にとっているわけです。

機能要件集合による定義と、社会的承認による定義のちがいをもう少し見ていきます。

機能要件集合による定義の場合は、あらかじめ定められた各機能要件を満たしていないかぎり、「〇〇である」と断定することはできません。

腕時計のケースでいえば、「これは腕時計ですか？」と聞かれたときに、「時を刻む」「腕につけられる」といったすべての機能要件を満たしているかと判断されれば、「腕時計である」と認められません。

仮に、「時を刻む」という要件を満たしていないのであれば、「腕時計」と呼ぶことはできません。「時を刻む」という要件は、不変です。

それに対して、社会的承認による定義の場合は、一つひとつの機能要件に照らし合わせて判断するわけではなく、多くの人が「まあ、ドラえもん

とっていいよね」と承認したものはドラえもんです。

(中略)

では、社会的承認を得るための研究とはどのようなものなのでしょうか。具体的に考えていきたいと思います。

たとえば、ある人が、ある機能を要件としてもっているとしたとき、この機能要件に対する研究アプローチはおもに三つあると考えられます。

- A. その機能を実現する
- B. その機能を実現しているように見せる
- C. その機能を実現せずに許してもらう

このうち、いずれか簡単なものを満たせば、その機能要件に関して社会的承認を得るという意味では成功していることになります。たとえば、「目に見える」「感情がある」「タイムマシンに乗ってやってくる」という三つの機能要件があるとしたとき、

「目に見える」というのは、実現することでクリアできます。実現するというのは、この場合は、目に見える実体をつくることです。もちろん、ほかの二つの方法も可能です。

「実際には目には見えないものをつくって、それが見えるという錯覚さっかくを引き起こす」

「ドラえもんは目に見えない存在であると解釈かいしゃくを改めなおさせる」というのが、これにあたります。

しかし、いちばん簡単なのは、実現することです。実体のあるロボットをつくって、「目に見える」という機能を実現させてしまうほうが簡単です。

「感情がある」という機能要件に関しては、断定しにくいですが、少なくとも感情に関する既存きぞんの工学研究では、「機能を実現しているように見せる」ということが中心的に取り組みられてきました。ロボットに感情があるように、人に見せかけるための研究です。

これは、工学的に感情の定義が定まっていないために、「機能を実現する」というアプローチがとれず、また「感情がある」ことが多くの人にとってゆずれない機能要件であると認識されているために、Bのアプローチがとられているものと思われる。

「タイムマシンに乗ってやってくる」という機能要件は、現代の科学で実現できるかどうかはわかりません。タイムマシンがない状態で、タイムマシンに乗ってやってきた、ということを感じてくれる人が多数派とも考えにくいです。

一方で、いつも自分に寄りそってくれて、自分を助けてくれるドラえもんがいたら、「ぼく、タイムマシンでやってきたんじゃないか、あの工場で作られたんだけど、それでもいい？」と言われれば、許してくれる人も多いのではないかと予想しています。

タイムマシンに乗ってやってこなかったけれども、ドラえもんを認めてもらえる可能性はあります。実現せずに許してもらおうのです。このように分解して考えていくと、ドラえもんづくりは不可能なことではなく、^⑥実現可能な道筋が見えてきます。

(大澤正彦『ドラえもんを本気でつくる』)

※定義……あることからの内容や、ある言葉の意味を、他と区別できるように明確に限定すること。また、その限定された内容や意味。

※汎用……一つのを広くいろいろな方面に用いること。ここでは様々な作業をこなせるという意味。

問1 ぼうせん部①「まず『ドラえもん』を定義しなければなりません」とあるが、注※の「定義」という言葉の意味を参考にして、「定義する」

ことを説明した次の一文の空らんにあてはまる表現を、それぞれ後の語群から一つずつ選び、記号で答えなさい。

「ドラえもん」というロボット／キャラクターは (い) ということを、 (ろ) と区別して、限定すること。

(い) ア どんな機能を持つか イ なぜ生まれたのか

ウ どういう存在か エ どうしたら作れるか

(ろ) ア すでに実現されているロボット イ ドラえもんを認められない存在

ウ 他の人が考えるドラえもん像 エ みんなからきらわれるイメージ

問2 ぼうせん部②「機能要件集合」とあるが、これを用いて「タブレット端末^{たんち}」を定義しようとした場合、この「機能要件」とならないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

「タブレット端末」

- ア 持ち運びが可能である。
- イ 防水機能が備わっている。
- ウ タッチパネルで入力ができる。
- エ さまざまなアプリを使用できる。

問3 ぼうせん部③「定義の合意がとれなくなります」とあるが、これはなぜか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ドラえもんが原子炉を積んでいるというもともとの設定を知らない人が、ドラえもんにまちがった要件を求めるから。
- イ ドラえもんが世界で一番有名かつ人気キャラクターなので、ドラえもんに求める要件は人によってさまざまだから。
- ウ ドラえもんを定義するために満たされなければならない要件は、あげはじめたらキリがないくらいにたくさんあるから。
- エ ドラえもんを定義するために必要だと考える要件は人によってさまざまで、それらがかみ合わないことがあるから。

問4 空らん④に共通して当てはまる言葉として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 好意
- イ 具体
- ウ 直観
- エ 論理

問5 ぼうせん部⑤「ここに、ドラえもんをつくることの特殊性があり、難しさがあるのです」とあるが、ここでの「特殊性」と「難しさ」の説明として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「特殊性」とは、一般いっぱんのものづくりの場合は完成品のイメージが後からできあがるのに対して、ドラえもんの場合は先にイメージがあるということで、「難しさ」とは、その多くの人が持つイメージに合うものをつくらなければならないということを指している。

イ 「特殊性」とは、普通ふつうのものづくりの場合には社会的承認という手段が有効でないのに対して、ドラえもんをつくる場合にはそれが有効であるということで、「難しさ」とは、そのような社会的承認を世界中の人々から得る必要があるということを指している。

ウ 「特殊性」とは、ドラえもんをつくるためには完成品のイメージを明確に持たなければならないということで、「難しさ」とは、そのようにドラえもんをつくるということが、ほかのものづくりよりも高度な技術を必要とするということを指している。

エ 「特殊性」とは、ドラえもんをつくるためには社会的承認という手段を得ることが必要不可欠であるということで、「難しさ」とは、その社会的承認が多くのものづくりで用いられるものでないことから、人々の理解を得にくいということを指している。

問6 ぼうせん部⑥「実現可能な道筋が見えてきます」について、本文を読んだサトウくんはこの「道筋」を、次のようにノートにまとめた。これについて、後の(1)～(2)に答えなさい。

ドラえもんの社会的承認を得るための方法

社会的承認 〓 作られたものが、こと。

〓 して研究アプローチ

=

《満たすべき機能要件》

一つめ ドラえもんの 〓 《有効なアプローチ》

二つめ ドラえもんの 〓 実際につけて見せる

三つめ タイムマシンという設定 〓 錯覚を起こさせる

〓 許してもらおう

(1) 空らん に当てはまる内容を二十字程度で考えて答えなさい。

(2) 空らん ～ に当てはまる漢字二字の言葉をそれぞれ本文中から探し、ぬき出して答えなさい。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本文を一部改変しています。)

少年の弟アツシは目が悪く、手術をするために入院することが決まっている。入院する前の日、少年と弟は海が見える場所を目指した。

団地を出るまでに、Tシャツの背中ではあせで濡れてしまった。覚悟していた以上にペダルが重い。ハンドルもふらつく。自転車の二人乗りは生まれて初めてだった。父はいつも平気な顔でアツシを後ろに乗せていたが、こんなに大変だとは思ってもみなかった。

「しっかりつかまつてるか？ 絶対に手、はなすなよ」

ふり向くとハンドルがふらついて転びそうになるので、前を向いたまま、大声を出すしかない。

アツシは「はい、ちゃんと持ってまーす」とうれしそうに答える。最初は「子ども同士の二人乗りってダメなんだよ、パトカーにつかまっちゃうんだよ、交通安全教室で言われたもん」といやがっていたのに、自転車走りだすと楽しくなってきたようだ。

バスを乗りついで一時間以上かかるので、海まででは行けない。そのかわり、海を見られる場所に連れて行くことにした。商工会館の屋上からだと、街並みの先のほうに、海が見える——かもしれない。

「でも、わかんないぞ、見えないかもしれないぞ、それでもいいよな、文句言うなよ」

出がけに一度、信号待ちのときにもう一度、念を押した。自信はない。商工会館は山の中腹にあるので見晴らしはいいはずだが、海まで見えるかどうかは確かめたことがないし、だいたい屋上に上ったことだつてないし、今日ばかりも空で、少し霞んでもいて、アツシの目で海と空を見分けられるのか、わからない。

信号が青になる。少年はハンドルを強くにぎり直し、ペダルをふみこんで、言った。

「もしも海が見えなくても泣いたりするなよ。泣いたら置いて帰るからな」

泣かないって、と笑うだろうと思っていたのに、アツシは「うん……」と低い声で言った。

「おっきな声で返事しろよ」

「はい……」

今度は、高いけれど細かい声になった。泣きだしそうな声でもあった。少年はもうなにも言わない。だまってペダルをぐいぐいとふみこみ、サド

ルからおしりも浮かせて、自転車のスピードを上げていく。

アツシがメガネをかけるようになったのは、幼稚園ようちんに入る前だった。健康診断けんこうしん断で視力が悪いことがわかり、病院で検査を受けて、メガネをつくった。ほんとうはその時点で手術をすめられていたのだと、あとになって——両親が手術を決断してから、聞いた。

ずっと足手まといだった。少年が団地の友だちと遊ぶとき、アツシは「ぼくも、ぼくも」と仲間に入れてほしがった。でも、仲間に入ってもいっても「おみそ」あつかいだった。としが四つも下だし、すぐにけつまずいて転んでしまっし、ボールの転がる方向きまりや距離がうまくつかめないの、サッカーやソフトボールの球拾いさえもにできない。

そんなアツシを見るたびに、いらいらした。友だちがメガネをからかったり、目の悪さのせいではじめたりしたことはなかったが、気をつかわれているのがわかるから、いやだった。アツシと一緒にいると、なんだか自分まで「弱いほう」になってしまっし、まだ遊びたがっているアツシを無理やり帰らせて、泣かせてしまったこともある。

かわいそうなことをした。いまは思う。② いまだから思う。もつとたくさん遊んでやればよかった。キャッチボールの相手をせがまれたとき、どうせアツくんには無理だよ、と断るのではなく、たとえボールを後ろにそらしてばかりでも付き合っつてやればよかった。

手術が成功すれば、視力はだいぶ上がる。いまほど分厚いメガネをかけずにすむし、ものがゆがんで見えるのも治る。でも、もしも失敗してしまふと——父も母も、そのことはなにも話さない。だから、少年もきけない。

「アツくん」前を向いたまま、声をかけた。「なんで海に行きたいんだよ」

「なんとなく……」

「だって、おまえ、海なんかべつに好きじゃないだろ」

「でも……わかんないけど、なんとなく……」

「明日入院するから？」

③ 少年の声は、かすかに震えた。アツシの返事がなかったの、ハンドルを強くにぎりしめた。胸がつつかえて、どきどきする。胸の中には、まだききたいことが残っている。

目の手術をするから？ 手術に失敗するかもしれないから？ もしも失敗したら目がどうなるのか、アツくん、知ってるの——？

道は上り坂になった。二人乗りでこぐのはもう無理だ。少年は胸をつつかえさせたまま、自転車から降りた。アツシも荷台から降りようとしたが、「いいよ、おまえは乗っつて」とふり向かずと言って、自転車を押していく。

「らくちーん。牧場に行つたときみたい」

アツシは笑つた。去年の夏、家族で高原の観光牧場に出かけ、曳き馬に乗つた。両親に「勇氣出してがんばれ」「怖くない怖くない」と励まされて一人で鞍にまたがったアツシは、白樺林の中を一周した。最初は鞍についた取っ手を両手でしっかり握りしめていたが、終わり頃には片手を離して、母のかまえるカメラに向かつてVサインをつくつた。「勇氣出してがんばれ」「怖くない怖くない」と、両親は手術の前にも言うだろうか。手術に成功したら、アツシはまたVサインをつくるのだろうか……。

入院は二週間の予定だった。目の中にメスを入れるというのに、意外と短い。そんなに難しい手術ではないのかもしれない。でも、もしも、もしも、もしも……と考えると、^⑤「もしも」の向こう側にあるものがどんどん近づいてくる気がする。怖い。だったらなにも考えなければいいのに、勝手に考えてしまう。両親に文句を言いたい。もっと早く手術を受けさせていれば、少年も幼すぎて「もしも」のことは考えずにすんでいたのに。

商工会館の建物が見えた。あと少し。少年は息を詰め、歯を食いしばって、自転車を押していく。あせが目にしみる。ふき取りたくても、ハンドルを片手で支えるのは無理だ。目がチカチカして痛い。あせと涙かにじんだ目に映る風景は、揺れながらゆがんでいた。

日曜日の商工会館は玄関に鍵が掛かっていた。少年はあきらめきれずに玄関のガラスドアを押したり引いたりしたが、アツシはさばさばした様子で「おにいちゃんと二人乗りしたから、面白かったから、もういいよ」と笑つた。

「だめだよ、そんなの」

開いている出入り口がどこかにあるかもしれない。たまにはそういうことで「もしも」を使ったかった。

「勝手に入つたら怒られちゃうよ……」と逃げ腰のアツシの手を引いて建物の裏に回ると、非常階段があった。落ちないように柵のついた、らせん階段だった。

よし、と少年はうなずいた。方角も海のほうを向いている。いいぞ、と頬がゆるんだ。「もしも」が当たった。めつたに当たらないから「もしも」なのだから、もう一つの「もしも」は、これでもうはずれる——と、いい。

階段を上つた。転んだときのためにアツシの後ろに回つた少年は、「手すり、ちゃんと持つてるか」と何度も声をかけた。階段の段差はけっこうあって、まだ小さなアツシは、一段ずつ踏ん張らないと上れない。でも、それがかえってよかつたのか、アツシは一度もけつまずくことなく、よしよ、よしよ、と上つていった。

三階から四階に上る途中で、まわりの建物の高さをこえて、視界が開けた。

「アツくん、海、あつちだから」

少年が指差す方向に目をやったアツシは、とほう途方に暮れた顔で「どこお……？」ときいた。
「もつと先だよ、ずーつと先のほう」

見えるのだ。ビルや家の建ち並ぶ街をこえたずつと先に、空よりも微妙びみょうにまぶしい、コンタクトレンズのような形の入り江えが小さく見える。まちが間違いない。あれは海だ。

⑥檻おびの鉄格子をつかむ動物園のゴリラみたいに、アツシはしばらく黙だまって柵さくに顔を張りつかせた。

カウントダウンは十。少年はそう決めた。十数えても海を見つけれなかったら、もつと上まで行けばいい。このビルは六階建てだから、どこかで海を見つげられる。絶対にだいじょうぶ。自分に言い聞かせて、いち、にーい、と数えはじめて……なな、で終わった。

「わかった！ 見えた！」

アツシの歓声かんせいが、鉄の階段にキンとひびいた。

二人はしばらく黙って、街と、空と、海をながめた。ときどき顔を見合わせて、アツシはうれしそうに、少年は照れくさそうに、笑った。アツシのほうが階段の上の段にいるので二人の顔の高さはほとんど同じで、正面から見るときにはアツシのメガネの渦うずもそれほど目立たないんだな、と少年は気づいた。

「夏休みになったら、ほんとに海に行こう」

少年が言うと、アツシは「泳げる？」ときいた。

「泳げるし、お母さんに水中メガネ買ってもらって、もぐって遊ぼう」

「お魚、見える？」

少年は息をすうつと吸いこんで、「アツくん目が良くなったら、見えるよ」と言った。「だから見えるんだよ、絶対、百パーセント」

「……ほんと？」

「信じてよ、ばーか。文句言ったら置いて帰るぞ」

⑦胸につつかえていたものが、とれた。アツシもなんだかほつとしたように、えへへつ、と笑った。

「アツくん……」

「なに？」

「手術がすんだらお見まいに行くから、マンガ、たくさん持って行ってやる」

大事にしているコミックスを、ぜんぶ。「そのかわりよござずに読めよ」と言うと、アツシは笑ってうなずいた。

「あと、いろんなテレビ、録画しとくから。退院してから観ろよ。オレも一緒に観てやるし」

入院中にアツシの好きなアニメの特番があるといいのに。ガキっぽいアニメなんて最近はちっとも観ていない。でも、アツシも一緒なら、泣くほど面白いだろう。

「あと……あと……」

ほかになかったつけ、アツくんに見せたいもの、なになかったつけ。うまく思いつかずに「あと……あと……」とくり返していると、雲の切れ間から夕陽が射した。

オレンジ色にかがやいた海を、アツシは「うわあつ、きれいっ」とつぶやいて、じっと見つめた。

「……べつにたいしたことないよ、もっときれいなもの、いっぱいあるよ……オレ、知ってるから、今度アツくんに見せてやるから……」

少年は柵に軽くおでこをぶつけながら言った。

それきり二人はまた黙りこんで、海をながめた。夕陽がまた雲にかくれてしまうまで、じっと見つめつづけた。

（重松清『おとうと』）

問1 ぼうせん部①「低い声で言った」とあるが、それはなぜか。理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 手術に対する不安により、気持ちが沈しずんでしまったから。
- イ 自転車の二人乗りが怖くて、不安な気持ちになったから。
- ウ 海を見られなかった場合、泣かない自信がなかったから。
- エ 少年の言い方が厳しくて、返事に戸惑とまどってしまったから。

問2 ぼうせん部②「いまだから思う」とあるが、それはなぜか。理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア アツシの目が良くなることを知り、兄弟の関係性を改善できると思ったから。
- イ アツシが手術をすることに決まって、過去の自分の行いを後悔しているから。
- ウ アツシの目の病状が悪化したので、かつての自分の態度を反省しているから。
- エ アツシが手術を受けることになり、以前よりも優しくしようと思ったから。

問3 ぼうせん部③「少年の声は、かすかに震えた」とあるが、この時の少年の心情として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア アツシが海に行きたいと言った理由が理解できず、あいまいな返事に不満を感じている。
- イ 手術が失敗した時のことを想像してしまい、発声が乱れてしまうくらいおそれている。
- ウ 今まで聞くことができなかった内容に踏みこみ、うまく話せないくらい緊張している。
- エ アツシが入院することに対して不満を抱いており、力が入ってしまうくらい怒っている。

問4 ぼうせん部④「Vサインをつくる」とあるが、この行動はどのようなことを表現しているのか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 初めは緊張して震えていたけれど、家族の支援のおかげで、期待に応えられたことを表している。
- イ 初めは緊張して動けなかったけれど、周囲の声がけもあって、立ち向かう覚悟ができたことを表している。
- ウ 初めは緊張して力が入っていたけれど、本人の努力の結果、余裕が出てきたことを表している。
- エ 初めは緊張して強張っていたけれど、両親のはげましにこたえて、恐怖に打ち勝ったことを表している。

問5 ぼうせん部⑤『もしも』の向こう側」が指す内容を「くこと」につなげるように本文中からぬき出しなさい。

こと

問6 ぼうせん部⑥「檻の鉄格子をつかむ動物園のゴリラみたいに」とあるが、どのような様子か。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 遠くにある海を見つけようと、かんで前のめりになっている様子。

イ 海を目指して柵を飛びこえようとするくらい、興奮をしている様子。

ウ 高い場所から遠くの景色をながめて、冷静に海を探している様子。

エ 街並みの先にある海を見つけて、注意深く目を凝らしている様子。

問7 ぼうせん部⑦「胸につつかえていたものが、とれた」とあるが、それはなぜか。理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 海が見えたことで不安がすべてなくなり、アツシの手術がうまくいくことを確信したから。

イ これまで話すことができていかなかった手術のことで、自分の思いを伝えることができたから。

ウ アツシに自分の考えを伝えることができて、手術の件でもう心配する必要はなくなったから。

エ アツシの言葉に勇気づけられたことで、今後に希望を持つことができて安心したから。

問8 二重ぼうせん部「たまにはそういうことで『もしも』を使ったかった」とあるが、この「少年」の考え方について以下の条件にしたがってまとめなさい。

【条件1】「少年」の考え方がどのようなかをふまえること。

【条件2】その考え方の良いところ、悪いところを書くこと。

以下余白

—